

VALINOタイヤにソフトコンパウンドモデルVR88GPが登場

ベーシックモデルのVR08GRに続いてコストパフォーマンスのよさがウリ!!

2020年秋に登場。グリップと価格のバランスがよくあつという間に広がったVALINO VR08GR そのさらにグリップ向上バージョンが発売になるという!!



265サイズが4本
10万円以下で発売予定

2020年秋に登場したヴァリノタイヤ「VR08GP」。265/35R18で1本約2万円という買いやすい価格と、高い性能で一気に入気を集めている。

2020年夏から秋に掛けてリーズナブルな価格でプロトタイプを一般カスタマーにインプレッションしてもらったキャンペーンを実施。グリップ力の高さと耐久性そしてリーズナブルな価格で人気を獲得した。そして2021年秋、新たなモデルVR88GPが登場する。パ

ターンはVR08GPから変わらず。基本的な構造も同じ。コンパウンドがよりグリップ力を重視したものにしている。減りにくさを示すトレッドウエアはVR08GPが200に対して、VR88GPは180。

コンパウンドを軟らかくすることで、熱の入りをよくし、グリップ力も向上させている。つまりもっとタイムアタックに適した性能を目指している。

社内テストでは狙った特性が確認されていて、VR08GPに比べて温まりが早く、グリップも高い。VR08GPのターゲットがREI71RSやNEOVA AD08Rで、

VR88GPのターゲットはREI12DやA052といったイメージだが、狙った性能があることが確認されているのだ。

ヴァリノタイヤの清水寿記さんは「コントラローブルなタイヤを目指しています。A052などよりピークグリップは劣るかもしれないですが、限界を超えたときにも扱いやすいことを重視しています。限界を超えても、突然グリップが抜けるのではなく、グリップを残しつつ完全には失わないので怖く感じにくいでしょう。」

また、限界を超えても回復までの時間が短いので、「あゝドアンダーでどうにもならない!」とは

トレッドパターンはVR08GPと同じ。回転方向ではなく、IN/OUT指定で、イン側に2本のグループを配してウエット性能を確保。雨天の街乗りでも安心感が高いという。アウト側には浅い溝があるが、使っているうちにこれらは無くなってしまいがそれでOK。その後も変わらずグリップを発揮してくれる。VR88GPはA052/RE-12Dと同等以上のライフを実現しているという

日本のヴァリノタイヤが設計し中国で製造される

ENGINEERED IN JAPANと表記されるように、設計や開発は日本国内のヴァリノタイヤが行っている。性能をコントロールした上で、コストの低い中国で製造すること265/35R18で2万円台という価格を実現している

トレッドウエアは180
トラクションAA

減りやすさを示すトレッドウエアは180。VR08GPの200に比べるとやや低いですが、いわゆるサーキット1回で終わってしまうようなタイヤは80くらいのことが多いので、何度も十分にサーキットを楽しめる

アウト側がスリックタイヤ状態になってからも安定して周回できるから最後まで楽しめる



にぜひ履いてもらいたいタイヤですね」とコメント。
モニターキャンペーンの日程はこれから発表になるが、そのテスト期間を経て、本格的に発売。「VR88GP」で265/35R18サイズ4本セットで約10万円が目安になる。

購入はインターネット経由でも店舗でも可能だが、基本的にどちらで購入しても価格は同じなので、送料を考えるとお店で購入したほうがお得だ。サーキット走行を楽しめる選択肢がひとつ増えたといえる。

驚異的なコストパフォーマンス
街乗りも快適(阪口良平)

これまでも販売されている「VR08GP」を岡山国際サーキット

VR08GPのグリップ力の高さとその維持力、そして価格設定は魅力



テスター 阪口良平

今季GT300クラスで優勝しているレーシングドライバー。だが、マイカーのBRZでサーキットを走りまくる走り好きでもある。今回はマイカーにVR08GPを履いて岡山国際サーキットでインプレッションしてもらった



約2ヶ月に渡ってVR08GPをテストしているが、まだまだ使えてサーキットでのグリップ性能も高い。街乗りでも静かで乗り心地も悪くなく快適だという



10月中旬からモニターキャンペーン
リーズナブルにVR88GPを履くチャンス!!

VR88GPもモニターキャンペーンを実施して、性能を確認してから本格的な販売に移行する予定。モニターキャンペーンは10月中旬開始予定で、使ってみて感想をシートに書き込んで回答する。モニター価格は265/35R18 4本セットで9万8000円(税込み)を予定。通常販売時の価格は1本あたりVR08GPより5000円高い価格になる予定だという。

でのテストと、その後もロングタイムでインプレッションを依頼した阪口良平選手に印象を聞く。「マイカーのBRZスーパーチャージャー仕様は265/35R18を装着しました。サーキットでのグリップはなかなかのもの。コーナリング時はわりと早めにかからスキル音がして、もう限界!と思ってステアリングを切っていくとまだグリップがある。普通はスキル音から先はグリップは落ちていきますが、その先が使えるタイヤ。ステアリングをラフに切ってしまうやすいビギナーも扱いやすいと思う。」

も変わらないタイムに驚きました。摩耗に関しては外側の溝は浅く、この溝はなくなってしまうので減るのが早いという人もいますが、外側の溝がなくなってもこれはそういうもので、タイヤ自体の摩耗はまだ大丈夫です。ウエツトグリップも街乗りでは、内側の縦溝があるので問題なかったですね。ロードノイズも静かです。タイヤのようなUFOが追いかけてくるようなこともありません。2度目のサーキットでもグリップは遜色なく感じますし、性能と価格のバランスは相当高いと思います」とコメントしてくれた。

を期待させる。